

## 体育会応援II 「スキー部」 親からのメッセージ



皆川 裕 (慶多/社会学部)

慶多が小さいころ(3歳)から、スキーをはき雪山へ行って遊んでいました。自宅のすぐ近くにスキー場があり、スピードに興味を持ち、小学校1年生よりレーシングクラブに入り練習をはじめました。日曜日ごとにアルペンジュニア大会出場、親子で各地方のスキー場に行き、親も一生懸命になってスタート地点で、ワックスをはがしたりレースの準備をしてきました。たくさんの人たちに囲まれ応援され、喜び、また、調子が悪く転倒した時は次回がんばろうと励ましたりしてきました。

中学校時代はハンドボール部に入り、夏のみ練習だったにもかかわらず、3年生の時には全国大会出場(千葉県)、冬はスキー全国大会に出場(秋田県)。一年間に二種目の大会出場は珍しいと言われました。悔しい思いをしたこともたくさんあり試練を乗り越えてきました。

高校は名門札幌第一高等学校に進学、スキー部に入部して肉体的にも成長、先生の指導で癖を直し、どのような滑りをしたら優勝につながるか、悩んだ時期もありました。また、スキー板を一気に換えた時、今までお世話になったスキーメーカーへの気づかいなども頭に浮かんだのではないかと思います。3年生の時には主将を務め、5月ごろには先生の方から大学のお話がありました。高校の先輩(法政大学OB)からお話をいただき、法政大学に入学しました。

スキー部に入部し、寮に入り、アルペン・ランナーとともに生活が始まりました。1年生には食事の当番があり、献立レシピを見ながら食事を作りました。精神的、肉体的にも成長し強くなっていきました。現在4年生になり、主将に指名をされ後輩を育ててスキー部の90年の伝統を守り続けています。インカレでも上位に残り、これからも頑張っていくと思います。

監督、コーチ、周囲の人たちに支えられながら、けがもなくここまで来られました。感謝をしています。メーカーさま、ヘッド・ミズノ担当者さまには大変お世話になりました。



した。今期も残り少なくなってきました。得意なスーパードターンは時速80キロから100キロのスピードなのでけがのないように全力パワーを出して入賞にむけて、思い出を作ってください。

第83回 全日本学生スキー選手権大会(2010年1月11日~17日)



2000年2月、トマムスキー場にて(中央)



1998年2月、キロロスキー場にて

(\*) 内はお子さまの名前/学部

## 「宮城県支部キャンパス見学会」報告



小野 順 (祐理/社会学部)

宮城県支部では10月1日(土)~2日(日)にかけてキャンパス見学会を実施しました。両日とも天候に恵まれ、小金井・多摩・市ヶ谷の3キャンパスを見学することができました。今回の参加者は22人。中でもお孫さんの大学をぜひ見学したいということで最高齢87歳の方も元気に参加してくださいました。あいにく東京六大学野球のリーグ戦において法政大学の試合は組まれてはいませんが、その分見学会に十分な時間をかけることができました。小金井キャンパスでは、生命科学部の植物温室や工学系の実験室を見学し、多摩キャンパスでは陸上競技場をはじめ体育施設を見学し

たほか、各学部棟を見て回りました。多摩ならではの自然に恵まれた環境を感じることができました。特にVブリッジを徒歩で渡ったことが印象に残りました。市ヶ谷キャンパスでは外濠校舎のエコシステムや最新技術が使われている各教室、そしてポアソナード・タワーからの東京の眺望に目を奪われました。3キャンパスそれぞれの特徴が感じられ、子どもたちの学習環境の素晴らしさに感心させられた2日間でした。また、今回の見学会では支部会員相互の交流も目的の一つでした。1日目の夜は多摩キャンパスのあるめじろ台のレストラを借り切って、現役の学生2人も加わり、大いに飲み、そして食べて懇親を深めることができました。会員にとってもキャンパスの素晴らしさと交流が図れた充実した見学会でした。



## 徳島県支部キャンパスツアー・東京六大学野球応援!



中尾 豊治 (陽一/理工学部)

わが徳島県支部は昨年に引き続き、10月8日(土)に市ヶ谷キャンパスの見学会と法政対東大の野球応援を行いました。今村後援会長をはじめ関係者の皆さまのご案内をいただき全員応援Tシャツに身を包み、幸いにも天候に恵まれ、試合も緊迫した応援に力が入る内容で、選手の皆さん、応援団の皆さんのひた向きさに胸を打たれました。試合の後、ポアソナード・タワー26階A会議室で学生を交えた交流会を行い、久しぶりに子どもたちの近況を知ることができ有意義な1日を過ごしました。四国・徳島に

いるとなかなか東京に出て行く機会がなく、子どもが法政大学に在学している間に都会の空気を味わい軽いカルチャーショックを受けることができます。徳島県支部ではここ2年ほど例年行事として12月末の父母学生校友交流会を行い地元就職の学生の情報交換と学内で同県人同士の交流、また、わが子の知らなかつた側面を垣間見ることが出来る会を行い、8月14日(日)には徳島名物本場阿波踊りに法政連で繰り出し、秋にはキャンパスツアー・野球応援と全国でも最小の後援会ではありますが年間を通じて盛りだくさんの行事を行い、学生とともに大学生活を楽しむことを目標にしています。





# 「香川県支部市ヶ谷キャンパス見学会&東京六大学野球応援」報告



副支部長  
二宮 弘也  
(慎一郎/現代福祉学部)

「ごめきうどん」で有名な香川県。わが法政大学後援会香川県支部は、10月8日(土)、市ヶ谷キャンパス見学会&神宮球場での東京六大学野球応援を実施しました。

香川県支部は後援会の規模は小さいですが、会員の親睦と子どもの情報交換をよく行っています。今回の計画を立案した時点では、遠路四国から東京へ何人の希望者が集まるのか不安でしたが、後援会本部のご協力もあり、総勢15人の参加者が市ヶ谷キャンパスに集合しました。

当日は好天に恵まれさわやかな秋空の下、わくわくドキドキの見学会がスタートしました。最初の外濠校舎では可動式870人収容の薩埵ホール(さだた)のスケールの大きさにびっくり!

続いて法政大学のシンボルであるポアン



ナード・タワーの26階(スカイホール)から眺める東京都心の大パノラマには、参加者から歓声があがりました。

地下1階のフォレストガーデンで昼食を済ませたあと、神宮球場へ移動し、秋のリーグ戦、法政大学VS東京大学の応援に参加しました。当日は徳島県支部の皆さんも応援に参加しており、さながら応援席は「四国デー」となりました。試合の方は苦戦しましたが1対0でサヨナラ勝ち。地元坂出高校出身の多木選手は1安打でした。最後は両校の応援団によるエール交換。その礼儀正しさと伝統の重み、美しさに心が震えました。

子どもたちにも神宮球場へ応援に行くように勧めたいと思いました。

最後になりましたが、終日ご案内いただいた後援会本部の池邊相談役、寺林顧問をはじめ事務局の皆さまにはたいへんお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

8月21日(日)、鍛え上げられた体格のラグーマンがそこかしこにウヨウヨしている長野県菅平高原で、ラグビーオープン戦「法政VS立正」(A・Bチームの2試合)が行われました。

長野県支部は、今年も多くのメンバーが応援に駆けつけ、法政大学保健体育部、後援会本部役員の方々と共に、全員でオレンジ色のウインドブレーカーを着込み、ラグビーグラウンドの一角をオレンジ色に染め上げました。応援では、対戦手を圧倒していたと思います。

当日は、まだ8月だというのに震えるくらい寒く、しかも厚い雲に覆われた小雨交じりのちよつと暗い気分になりそうな天気でしたが、試合は、熱く、見ごたえある内容でした。

一人ひとりが、チームのために必死に頑張ってわき目も振らず走り続けているさまは、見ていてとてもすがすがしいものでした。テレビ画面を通じては決して分からない、分厚い体がぶつかり合う鈍い音、信じられない速さでグラウンドを駆け抜けるスパイクの音、肩で大きく息をしながらも目は常にボールを追い求めている選手達の気迫

# 「長野県支部菅平ラグビーオープン戦観戦」報告



支部長  
秋山 民夫  
(直人/社会学部)

を、すぐ目の前で感じる事ができ、とても感激しました。

2試合目のAチーム戦は、なかなかペースがつかめず、このまま敗戦かと覚悟したその時、最後のワンプレーでトライを決め、見事、逆転勝利しました。まるで、青春ドラマのような展開でした。

連日の厳しい練習と激しい試合を重ねていく中で鍛え上げられる肉体と精神、そしてチーム勝利のための献身的な行動は、学生自身をさらに高め成長させるだけでなく、見ている私たちをも感動させ勇気付けしてくれるのだなとあらためて感じました。



# ラグロスを部を観戦して



後援会副会長  
水品 孝一郎  
(斉子/情報科学部)

9月3日(土)に駒沢球場にラグロスの部を応援観戦に行ってきました。対戦相手は東海大学で、試合開始時間に少し遅れて着いたときは、第2試合の真最中で、応援が白熱しており、前日からの天気の影響か、東海大学に先制点をとられ負けていました。

ラグロスというスポーツについては、よく街中でラケットを持ち歩いている学生さんを見かけましたし、何となくどのようなスポーツかは知っていましたが、ルールなどは一切知りませんでした。

観戦していると、スポーツは駆け引きが大切ですが、球が小さいのでよく見えないと、どこにあるのか見失うことがしばしばありました。試合が進行して2回戦・3回戦で逆転し、法政がリードして応援席は盛り上がり皆さんの顔にも笑みがこぼれました。

ただこの時には、4試合目、あのサッカーワールドカップ予選の「ドーハの悲劇」と同じことが起ころうとは応援しているわれわれも、思ってもおりませんでした。

試合時間終了間際に1点を取られ、ロスタイムの終了間際に、また1点を取られ選手たちの奮闘、観客席の応援もむなしく試合は6対6の同点で終わりました。しかし風は強く吹いておりましたが雨も降らず、楽しい応援ができました。



# 「常任参与・参与と後援会運営委員との懇談会」報告



後援会総務  
奈良 陽子  
(雄飛/キャリアデザイン学部)

6月30日(木)、この懇談会は毎年、後援会からの学生支援費についての予算執行状況や次年度予算について話し合いをしています。今年も地震などの非常時の対応についてもお話を伺いました。



1. 東日本大震災関連にて  
被災状況は5月末ごろにはほぼ全貌が判明し、あわせて今回の震災の規模・特殊性にかんがみ、震災による大幅取入減や支出増、または原発事故による避難などにも柔軟に対応できるよう災害による学費減免採用基準を設定しました。

に守れるように、備蓄する計画です。また、各教室への避難経路図の配置や、教職員、学生への防災マニュアル配布を準備しています。さらにキャンパス内、キャンパス間の連絡体制についても、避難の指揮が執れるように無線機を配備するなど、非常用放送設備を改修する予定とのことです。

2. 地震などの非常時の対応について  
3月11日以降、各キャンパスの防災体制の見直しを行っており、特に災害用備蓄については、飲料水と食糧、宿泊用毛布など、学生の身の安全が充分

3. 後援会賞の対象について  
後援会賞にふさわしい難関各種試験としては、公認会計士試験を想定しており、過去には国家公務員I種(上級甲種)も対象としていましたが、採用試験に該当するものは、適当でないかと判断し対象外としたとのことです。

以上のほか、来年度の学生支援費についてなど今後さらに継続的な協議をお願いし、短時間ながら充実した懇談会となりました。

# 後援会ホームページのご案内

URL : <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを開いていただき、オレンジのインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。(6月にリニューアルしました。)

# 「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、アメフト甲子園ボウルや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きます。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp